

棚からひとつかみ 『宇宙つながりで』

文学少女だった司書（小原）が様々な分野の本を読むきっかけとなったのは、「司書」として学校図書館に勤務するようになってからでした。知らない世界と出会うチャンスはどこに用意されているかわからないものです。

今回は、「宇宙」をキーワードにこの2冊。そういえば、5月26日は「皆既月食」。どうぞ、見られますように。



『宇宙を生きる 世界を把握しようともがく営み』

440イ 磯部洋明著（小学館）2019
宇宙好き、物理学好きは一もこもなく著者の紡ぎ出す世界に引き込まれるでしょう。苦手な人にも著者の伝えたいことは、しっかり届きます。宇宙物理学を通して、専門的なことを述べながら、「学問とはなにか」「研究するとはどういうことか」という根源的な問いがそこにはあり、読者は今の自分の立ち位置からそのことを考える機会を得るのです。

『つきのふね』913.6モ 森絵都著

（講談社）1998

ノストラダムスの大予言が世間を騒がせ、スマホはまだ世に出ぬ23年前。時代背景は違えど、人が（特に10代が）抱える心のモヤモヤは変わることなく横たわる。「宇宙船」を設計する青年・智、あることがきっかけで絶縁状態になったさくらと梨利、彼女らを追いかける勝田。今を生きることにもがく彼らにとっての「月の船」は現れるのか。



【文学よもやまクイズ】

Q.世界的に有名な推理小説の「シャーロック・ホームズ」シリーズ60作品のうち、いちばん最初の作品はどれでしょう？

- A「まだらの紐」 B「緋色の研究」
C「赤毛連盟」

頭の体操

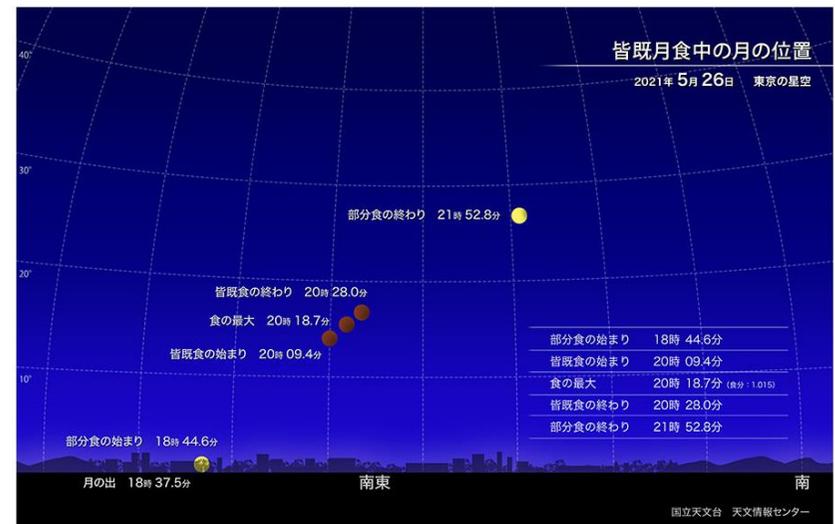


扉を開こう。新たな世界が君を待っている。

みなさんは、どんな時に自分が宇宙の一部だと感じますか？

当たり前のように空（宙）は広がっていて、考えてみたこともないかもしれませんね。毎年のように、神秘的な天体ショーは繰り広げられています。アンテナを立てていると、情報は引っかかるものです。

今回は、「皆既月食」。あわせて、『国立天文台HP』も紹介します。ぜひ、アクセスしてみましょう。もちろん、5月26日の夜空にも！
皆既月食(2021年5月)



画像サイズ：中解像度 (2000x1265) 高解像度 (5500x3480)

国立天文台 HP (<https://www.nao.ac.jp/>) 「ほしぞら情報」より